



天野進吾が語る。語る。今日のできごと。まつりごと。

ホームページを見てください <http://www.amano-shingo.info>

## 近未来に施行される? 「道州制」の行方

愈々、4月8日の投票日に向けて統一地方選挙がスタートしました。

恐らくこのSHINGO SCOPE・40号が皆様の目に届く時はいつもなら4月上旬になります。今回は選挙の渦中になりますので、敢えて先駆けて発刊しました。

さて3月1日に市民会館にて私の後援会の大会を開催しましたが、お陰さまで本場に多くの皆様にお出掛けいただきました。しかも高額の参加費を供出願つての「我がまま」な企画にご理解いただき心からお礼申し上げます。

その際、私が声高に申し上げたことは、諺にいう「待てば海路の日和あり」の伝統的な受身姿勢から、市民が一日も早く脱却すべき時と警鐘しました。

正直言つて、この街の市民も行政も「闘う」という点については極めて薄弱であり、常に逃げ腰の姿勢に終始しておりました。

ご案内のように現在、安倍内閣において「道州制」の検討が始まりました。

私が意外に感じていることは、当事者たる役所も議会も、想定される「道州制」の問題点について一瞥もしないところであります。

若し実行された場合、予想される道州制における本県の位置は、愛知、岐阜、三重と一体となった「東海州」の一部となりますが、その州都は当然「名古屋」に置かれるはずで、

「道州制」のもとではこれまでの「都道府県」という括りは必然的に廃止されます。当然のことながら静岡市から「県庁」は消滅し、伴って各種の団体、組織も必然的になくなるでしょう。

今日の静岡市にとって「県庁」の存在は譬えて云うなら「年寄りの杖」であります。

この街の何処に「県庁」がもたらす経済効果に匹敵する事業体がありますか。

県庁職員8000人の凡そ4分の1が本庁に在籍し、市役所に次ぐ雇用の場を提供しているのではありません。更に県庁所在地だからこそ存在する職場、例えば県の総合管理公社を初めとする公的組織は枚挙に遑ないところでありますがその殆どが消滅する運命にあります。

### 小澤代表の欺瞞…「ざる法」を逆手に

正直言つと、政治資金規正法は、これに関わる政治関係者にとつては極めて都合よく法制化された代物であり、その実態を知れば、相当、寛容な方でもお怒りなされることでしょう。

そして、この法律の欠陥を利用したのが、この度の民主党・小澤代表の不動産購入の内幕であります。そもそも政治献金とは当該政治家の政治活動を支援するための浄財でありますから、その資金をもとに不動産を購入するとは、途轍もない発想で、支援者への明らかな裏切りと言わざるを得ません。

しかもそこに建てられた秘書用の建築物は、明らかに近い将来取り壊すことを前提にして建てたものでありましょう。

殊に最近の都内の住宅地の値上がりは激しく、時にバブル経済の再来かと思われるほどです。ですから銀行に遊ばせておくより不動産投資を策したとしても一般人であれば何ら可笑しくはない処であります。

テレビで放映した記者会見上の小澤代表は不動産登記簿をかざし、「このように、私の名義にはなっていない」と六方を踏んで説明しておりました。この時、残念ながら会見に臨んだ新聞記者の皆さんは

近年、本市の商業地にあつても、既存ビルが解体された後、その多くの敷地がコインパーキングに変身しております。それは云うまでもなく現在の静岡市には新たなビルの建設を必要とする活力がないからであります。

低迷続けるこの街から、将来、「道州制」が施行され、県庁とこれに関連する職場が消滅していった時、我が静岡市は何をもって激動の21世紀を生き延びようとするのか、即ち政府が目論むこの「道州制」の導入について、今こそこれを阻止する明確な姿勢を整えておかねばなりません。

規正法の「裏事情」を知りませんから、小澤氏の鼻息荒い説明を鵠呑みにしてしまいました。

登記簿に記された政治資金団体の名称については承知しておりませんが、この団体は明らかに小澤氏個人の管理下であれば、団体の持つ不動産や財産はその将来において、都合で第三者に相続しようとする場合、小澤氏の意向のままに、しかも全ては非課税の特権をもつて変更できるのであります。

更に驚くべきは、この団体を解散しようとする場合には、一遍の届け出書類だけでその目的は達成するという市民サイドからみれば将に「怒り、心頭」のシステムになっているのであります。即ち当該団体にいくら残金があつたとしても、その処分についての制約はありません。

「ざる法」と言われるこの規正法を悪用し、堂々と開き直つた小澤代表にはほとほと呆れかえつた処ですが、その前に底の抜けた政治資金規正法の抜本改正が真つ先に行われるべきものと確信します。

尚、今、問題提起されている県会議員の調査費については既に各党の代表者によって審議しておりますので、次回から逐次その内容を掲載して参りますのでご期待ください。

# 「沼のばあさん」

幼い頃、私達は屢々、いたずら仲間と麻機の沼地まで出かけ沈みかけたボートに乗って遊んだ事を覚えております。至る所、鬱葱と葦が生え、子供の足では立つことも適わない沼地でした。しかし釣り遊びやトンボ取りなど子供たちの好奇心を充分に満たしてくれる環境でした。勿論そこが通称「沼のばあさん」と呼ばれる暗い謂れの場所であることは承知しておりました。

そこでこの際、沼のばあさんの伝説を大雑把に紐解いてみましょう。

時代は南北朝（14世紀の初め）、新田義貞軍に味方した麻機の土豪岩崎修理之介時光の姉「秋野」には小菊という娘がいた。小菊は手越川原の戦が縁で義貞の弟脇屋義助と親しくなり「小葎」という娘を産んだが、産後の肥立ちが悪く3日目に亡くなりました。

小葎は祖母秋野の手で育てられたが、14歳の折、秋野が病に伏すところとなる。病気の治癒を祈って小葎は毎日、浅間神社にお参りしていたが、ある日、川合から舟で浅畑沼にさしかかった時、そこに突然「河童」が現れ小葎は沼に引きずり込まれ、行方不明になってしまいました。この報せを聞いて病に伏す秋野ではあったがやおら立ち上がり沼ま

で走って行くや「河童を退治して沼の守り神にならん」と投身し果てたのでした。

村人は秋野と小葎の霊を慰めるために施餓鬼をしたところ、水面が激しく渦巻き、恰も何者かが戦っている様子であったが、暫くして辺り一

## 一寸一言 私の雑記帳から

### 苗字について

以前、この欄で「韓国の苗字は全部で274種類」と紹介しておきました。

ところで日本人の苗字は多種多様、10万〜20万と極めて大雑把な数値しか発表されておりませんが、その数ある苗字のなかで現在では1に「佐藤」、2に「鈴木」と言われております。

実は子供の頃から「なぜ「鈴木」の姓が多いのか、その意味は何なのか」疑問を抱き続けてきました。

勿論「佐藤」姓の典故も確かではありませんが「藤原氏」を補「佐」するの意味から名付けられたものと考えてきました。「近藤」は近江の藤原、「遠藤」は遠江国の藤原、「加藤」は加賀の「藤原」からの出典でありますので、私の推測も当たらずとも遠からずと理解しております。

面静けさを取り戻しました。このことから、地域の人々は秋野ばあさんが河童を退治したものと信じ、秋野を祀る諏訪神社は俗に「沼のばあさん」と呼ばれて今日に至っております。



さて、「鈴木」姓ですが「苗字辞典」によれば、その由来は和歌山県紀伊半島に発するとのことです。この地域では刈り取った稲を積み重ねたものを「すずき」といい、これに漢字を当てはめて、「鈴木」の姓が誕生、後にこの一族が藤白（海南市）の神官となり、更に熊野信仰と結んで全国に広がっていったとのことであります。

現在、藤白神社は鈴木姓のルーツと言うことから、折々に「鈴木サミット」が開催されております。

また、「鈴木」姓の分布について云えば、東京を中心に関東方面に多く、九州では苗字ランキングの50位にも入ってはおりません。

尚、「天野」姓は残念ながら全国ランクの150位にも入っておりませんが、蛇足ながら、大谷、高松方面に多い「天野」姓は山梨県からの流れ、他は遠州の流れと言われており私は末端に位置しますが後者に属します。

# 逆風満帆

## 「大丈夫!」といえる静岡を



### 歴史講座のお知らせ

町内会の集会、サークル活動などに天野進吾を呼んでみませんか。嬉しいことに最近、グループや町内会などで『天野進吾』の歴史講座の要望が増えて参りました。

このSHINGO-SCOPEの郷土史が好評です。その現れかもしれません。どうぞ、お気軽にお声掛けください。